

令和6年度 園評価書

園番号 15 園名 静岡市立大谷こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園の取り組み	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	
自分が好き・ みんなが好き	「やってみよう」「試してみよう」	【考える子】知・意欲 ・身の回りのことに積極的に関わり、疑問や不思議さを抱いて遊ぶ	好きな遊びを見つけ、友だちとイメージを膨らめて意欲的に取り組む姿が見られた。子ども達の興味関心を保育者も面白がり、一緒に疑問や不思議さを探索したりしたが、「何でだろう」のタイミングを逃してしまうこともあった	B	A	駒回しや一本下駄、福笑いのお正月の遊びなど家でできない経験が園でできている。温かく見守ってもらっているのが、有難いと思っている	子どもの「何でだろう」というタイミングを逃さないように、保育者のアンテナを高くする。考えをめぐらせるような環境（提供する素材、量の工夫、保育者の見守り方など）を意識していく
		【自分の思いを伝える子】徳・心情 ・自分の思いを伝えようとしたり、友だちの思いに気づき、興味を持って関わろうとする	思いを伝えることも十分大切にしたりで、友だちへ自分の気持ちを伝えることが難しい子の思ひにもゆっくり耳を傾けた。互いの思いを聞き、伝え合いができるように足りない言葉を補ったり気持ちや代弁したりし、積極的に発言できない子へのサポートをした。そうする事で友だちの思いに気づき関わる姿が見られるようになった	B	B	園評価書の上の三つは、子ども達がどこまで育っているのかで評価する。下の各領域に関する項目は、職員のアナケートの結果が根拠になるとよい。内容の「根拠」「裏付け」エビデンスを基に来年は評価をやってみたらどうか	友だちや身の回りの人の思いに気づけるよう思いの代弁をしたり、相手の表情に目を向けられるような言葉かけを行っていく。対保育者だけでなく、友だち同士聞き合える工夫をしていく
		【自分から動く子】体・態度 ・体を動かして遊ぶことを喜び、前向きに挑戦する	子ども達と遊びに必要な運動用具を用意したり、積極的に体を動かせるよう環境を用意していた。保育者も遊びに加わり鬼ごっこやドッジボールを楽しんだり、さくらんぼリズムや体操などを保育の中に取り入れることで友だちと体を動かす楽しさを感じ、前向きに挑戦する姿が見られるようになった	A	A	思いを十分にさせない子もいるので、ゆっくりと耳を傾け、丁寧に一人一人の子どもの思いに寄り添い、受け止めてほしい	子どもが苦手だと感じている運動遊びは、失敗すると次の挑戦につながらなかつたり、初めてのことに躊躇したりするので、友だちの姿を見せてコツを知らせたり、保育者ができないところを見せたりしながら、今後も「やってみよう」とする気持ちを持って意欲につなげていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園の取り組み	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	幼児期に育てたい姿を踏まえ、年齢や特性による発達の違いを理解し、一人一人に合わせた援助がされている	月案や週案作成時に、幼児期に育てたい10の姿を意識して記入し、子ども一人一人の発達に応じた援助を行った。公開保育の事後研修で10の姿が現れている場面を捉え子どもの育ちを確認した。年齢的な発達だけにとらわれず、一人一人に合わせた援助をするようにしたこと、どの子ども成長が見られた	B	B	幼児期に育てたい10の姿は、職員が意識できるよう引き続き取り組んでほしい	幼児期に育てたい10の姿は年長組だけでなく、年齢ごとにクラスの子ども達に照らし合わせ、今年子ども達に必要な力は何か、教育保育の中でどこを育てたいか明確にしていこう。職員間や落とし込みに差があるので引き続き全員で学んでいく体制を作る
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	それぞれの家庭状況を踏まえ1号児、2号児各々の生活の時間帯の違いに配慮した生活や遊びの流れが園生活の中で作られている	登園時（早番）から降園時（遅番）までの子ども達の様子や体調について名簿を活用し丁寧に引継ぎを行った。保育時間が長い2号児についてはそれぞれの体調を踏まえ、生活リズムを配慮し、一人一人に合わせて対応を心がけた	A	A	生活リズムの配慮を行い、一人一人見て頂けているのが有難い。お昼寝がなくなり体力を心配していたが、休む時間を作ってくださっているのが有難いと思っている	保護者の抱えている状況に配慮しながら、子どもの生活リズムを整えていけるよう職員間で引き続き情報を共有していき、今後も子どもの様子を丁寧に伝達し安心して過ごせるよう配慮する
	(3)環境を通して行う教育及び保育	「やってみよう」「試してみよう」と遊びたくなる環境づくりがされている	遊びの拠点作りを通して「やってみよう」「試してみよう」という思いをすぐに遊びに取り入れ、イメージしたものを形にしていけるよう子どもと一緒に必要なものを準備し、やってみようとする環境作りを心がけた。また、物的だけでなく言葉かけの工夫、保育者の立ち位置の検証など人的環境も整えられている	A	A	遊びたくなる環境作りの為のしつけがされており、この園の強みであるのではないかと。子ども達ややってみようという思いを大事にしている。園庭マップで毎月どのような遊びを展開するのか職員間で話し合いがなされている。学年ごとに色分けがされており、視覚的にわかりやすい	素材や教材をただ揃えるのではなく、子どもが自分で考えることができるような環境を考え、用意するタイミングを工夫し、子どもが「試してみよう」と思える環境を構築していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	いろいろな状況を想定した避難訓練を計画に沿って実施し、ヒヤリハット事例検討や安全チェックリストの実施がされている	色々な状況を想定し、駿河台公園まで速く安全な避難ができるように訓練している。また、子ども達に自分自身を守る方法や避難時の約束を知らせている。確認不足によるヒヤリハットが多かったため、声を出し合いミスを未然に防ぐようにした。新聞記事の事故を共有することで、安全意識につなげた	B	B	安全管理では、新聞記事を共有し意識を高めているなど、安全管理の意識が高いと感じた。これからは子どもも安心安全に尽力してほしい。	防災から減災へ考え方を変え身の守り方（カエルポーズ、トカゲポーズ）を定着させ、南海トラフ、大型台風に備え訓練を重ねていく。又、古なししの訓練を今後も取り入れ、職員のスキルアップをしていく。指差し確認や声出しによるダブルチェックの確認を徹底していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	体を動かす遊びや食事を通して体に關心を持ち、健康や清潔に過ごす習慣が身につくよう取り組みがされている	栽培やクッキングを通して自分達で育てる喜び、食べる楽しさを味わうことができた。毎月の食育の中で、外部栄養士の協力も得て、食事のマナーや食べ物の栄養などを知り食べ物に関心を持つことができた。個人差はあるが、手洗いが正しい仕方や滅菌チェックなど生活習慣が身につけてきた	A	A	命を守る訓練を毎月やっていることは素晴らしい。小学校では体を動かし頭を守る訓練を予告なしで行っている。身の守り方など学校でも意識していきたい。	様々な食材に触れながら身体を作る食べ物や栄養などを食育活動の中で伝え、食べてみようとする気持ちにつなげていきたい。引き続き体に關心を持ち健康で清潔に過ごす習慣が身につくよう知らせていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	支援担当会議を行い、一人一人の姿に応じた支援方法を職員間で共有し同じ関わりが持てるようになっている	月に一度支援担当者会議を行い、子どもの姿の共有や支援方法の検討をし、共通理解を図ってきた。支援児への関わりについて悩みの相談をしたり助言を受け実践するようにした。支援担当者の月の反省の用紙をより書きやすい書式に変更し会議で報告することで担当者以外の職員の共有を図った	B	B	自治会でも高齢者を孤立させないように避難所に連れていくにはどうしたらよいかと民生委員や社会福祉委員とも連携を図っている。地域と園が連携しお互いに助け合い子ども達を守っていききたい。自治会としてできることがあったら教えてほしい	一人一人の支援方法についてクラスでも話をする時間を作り共有していく。支援担当者会議で話し合った内容を職員全体で共有し合い、園全体で同じ支援ができるようにする
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員が自分の分掌に責任感を持ち、年間計画に沿って企画、伝達、運営が確実実施されている	自分の分掌に責任を持ち計画的に進めてきた。行事などの企画を立て職員会議で内容の伝達を行い職員間で協力しあい実施した。大きな行事は準備リストを貼り出し全職員で共有するようにした。分掌によっては担当者のみの反省になり他職員の意見が反映されていないものもあった	A	A	コードゼンでお便りなどカラーで発信してくれるので分かりやすい。今後も分かりやすい工夫をお願いしたい	企画の共有だけでなく進捗状況を皆で声を出し確認し合っていく。反省を全体に投げかけより多くの意見を活かし次の計画につなげていく。早め立案、提出期限の厳守をし、スムーズに行事や活動の準備ができるようにする
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修テーマの手立てに基づき環境構成や援助を探るとともに、園の教育保育について語り学び合う	研修主任を中心に毎月振り返りシートや園庭マップ、週案の研修テーマの手立ての記入などを活用しながら園内研修を行い、園の教育保育について職員が語り合い学びの場となった。公開保育を5回実施し小学校や他園の職員が参観し環境構成や援助についての意見を聞くことができた	A	A	大谷地区の開発が進めば施設が増え治安が心配される。子ども達や高齢者の交通安全も考えていかなければならない。大谷地区にはい行事が多いので残していきたい。園にも自治会の人を呼んでもらい、地域の人が園に関わるように今後もしむけてほしい。	会議に参加できなかった職員とも語り合う場も作り、全職員が年間を通して研修テーマに取り組めるようにする。又、園庭マップは計画だけでなく保護者の見える所に掲示するなど活用する仕方を検討していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもと振り返りをし、明日も遊びの続きを継続できるように声掛けや素材の合わせ方を考え提供がされている	タブレットの写真を活用し子どもと遊びの振り返りをしたり、見やすい場所にしたものを置いておくことで子ども達が自然と遊びを思い出し翌日に遊びが継続していた。子どもの作ったものを玄関に並べて置くことで、保護者に見てもらったことが楽しくなり意欲的に作る姿が見られた	A	A		資源や教材を大切に扱えるよう子どもに話をしたり、取っておいだもの片付け方を考えたりしていけるようにする。引き続き日々の振り返りをし、翌日も子どもと一緒に続きができる環境作りを行っていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	ドキュメンテーション等の写真の掲示やコードモンを使ってのお便り配信等、育ちの姿をわかりやすく記載し、園の教育保育の様子が発信されている	遊びの経過をドキュメンテーションやパワーポイント等視覚的な工夫を行い、その都度知らせることで日頃の教育保育の理解につなげてきた。園からのお便りをコードモンで配信し保護者がいつでもどこでも確認できるようにした。保護者アンケートで多くの方から子どもの成長の姿や取り組みへの担任の思いなど知ることができたとの感想を頂いた	A	A		これまでの発信方法を見直しつつ、ICTを活用した配信を取り入れ、保護者により伝わりやすい方法とは何かを模索し続けていく。行事によっては今まで通り紙ベースでドキュメンテーションを貼り出し、子どもや保育者だけでなく保護者も遊びの経過が分かるようにしていく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	近隣の小学校や園との交流、公開保育を行う。自園の取り組みをお便りで発信したり、学校評議員会などで情報交換や連携を図っている	小学校や近隣の園の公開授業（保育）に行ったり、園の公開保育に小学校の教諭を案内し交流を図った。また、幼保連携協議会の場を年2回設け教育保育で大切にしていること等情報交換を行った。また1月には園児が小学校見学をし交流を図った。久能こども園との交流は計画通り毎月1～2回実施した	A	A		今年度発足の幼少連携協議会を来年度も継続していく。連携園むすび度との交流、連携も年2回から3回以上計画し内容の一步踏み込んだものにしていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	おしゃべりサロンの実施、地域行事の積極的な参加、散歩などを通して様々な人と関わる機会が作られている	敬老会や地域の子育て支援事業（しゃんしゃん）に参加。園だけでなく地域の回覧板で配布する等し園活動を発信した。また年10回おしゃべりサロンを開催し地域の未就園児の子育て支援を行った。大正寺より七夕の笹を頂いたり、地域の方に畑の世話や駒の回し方を教えて頂く中で親しみを込めて名前を呼ぶなどし、様々な人と関わる事ができた	A	A		これまで同様、地域の行事に積極的に参加し今後もつながりを大切にしていこう。又、地域の行事に参加することだけで満足せず、散歩に出かけ、地域の方に挨拶をコミュニケーションをとり、保育者が積極的に挨拶する姿を見せることで子ども達の意識が高められるようにしていく